Street Culture × Architecture

ーアングラの発信源ー

Keywords
渋谷　ストリートカルチャー　歴史
ヒップホップ　スケートボード　サンプリング

AK16083　中川 海人

1. ストリートカルチャーとは

路上文化のことであり、1970年代にニューヨークで始まったヒップホップを中心としたものや、同じく60年代にカリフォルニアで生まれたスケート・カルチャーに根差すカルチャー、およびその周辺のファッションや音楽、ライフスタイルを指す。本来は社会の支配的な文化(ハイカルチャー)に対するマイノリティの文化事象(サブカルチャー)のことである。

2. 研究背景

2.1　東京におけるストリートカルチャー

東京は現在、ストリートカルチャーが面白く発展している都市として世界で認知されている。特に渋谷、原宿には世界に数店舗しかないショップが出店されていたり、様々なカルチャーがミックスされ東京独自のストリートカルチャーが発展を遂げている。

2.2　目的

渋谷、原宿はストリートカルチャーのメッカであったにもかかわらず、現在、渋谷区全体でスケートボードが禁止されたり、渋谷でのボーダーの活動拠点であり交流場所であった宮下公園が閉鎖されるなど、ストリートでのカルチャーの成長を阻害し、新たな商業施設を作る動きが見られる。このまま街に規制が増え、大きな商業施設が増えていけば、渋谷に根付いた本物のストリートカルチャーは失われ、渋谷は表面的にストリートカルチャーを装ったフェイクな街へと変わっていくであろう。そこで本研究では、渋谷でのストリートカルチャーの活動拠点となり、ストリートカルチャーを愛する人達がカルチャーを学び、成長させることが可能な施設を設計し、ストリートカルチャーの発展を促進させていくことを目的とする。

写真1 渋谷区スケートボード禁止の看板

3. 敷地

対象敷地は神宮前6丁目の宮下公園交差点付近から、神宮前3丁目の渋谷区障害者福祉センターまでを、明治通りに並行するように走るキャットストリートとその中央にある三角地帯とする。この三角の街区から一本外れた道にはアンダーグラウンドな雰囲気を持つ様々な店舗が点在している。

図1 敷地の位置関係

1)　キャットストリート

現在キャットストリートとして遊歩道になっている道は、元々は渋谷川という川であり、江戸時代の渋谷川(隠田川)には水車がいくつも造られ、広大な田畑を潤していた。生活排水の汚染が進んでいたため、1964 年の東京オリンピックをきっかけに渋谷川は暗渠化されアスファルトで舗装され、今のキャットストリートの道ができる。当時はこの細長い道が子供たちの公園となり、遊具や砂場が置かれていた。バブル時代に表参道に有名なショップがこぞって出店し始め、表参道とは対照的に古着やイ

ンディーズ系の個性的なショップがキャットストリート付近に集まりだし、今のキャットストリートへと変化していった。現在ではキャットストリート周辺にストリートカルチャーに関わるショップが多く立ち並び、ストリートカルチャーに関係する人が多く関わる街となった。

写真2 キャットストリートの様子

2) 敷地対象地

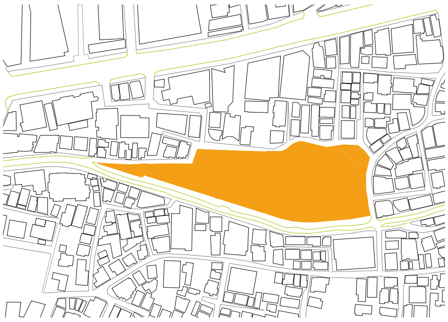


図2 敷地と周辺の地図

表1 対象敷地の概要

用途地域	第1種住居地域
容積率	300%
建ぺい率	60%
敷地面積	7300㎡

4. 設計手法

ストリートカルチャーを愛する人たちが自分たちの活動を阻害されず自由に行え、様々なジャンルの人たちが一つに集まることができる施設を設計する。周辺の建物のボリュームを意識し高さや壁長に考慮して設計を行う。表参道に対して、本来の意味でのサブカルチャーの拠点となるように、「裏性」を打ち出す。またプログラム毎に空間をはっきりと分けるのではなく、様々なストリートカルチャーのジャンルを互いに認識できるように配置し、刺激しあえる場とする。サンプリングなど、ストリートカルチャーが持つ習性を空間に取り込む。

5. プログラム

1) 制作部門

・ アトリエ
グラフィックや造形物など、クリエイターの制作活動を支援する場。

・ 音楽スタジオ
ラッパーやトラックメイカーといった人がレコーディングや制作を良い環境で行える場。

2) 展示部門

・ ギャラリー
上記の制作部門や、外部で造ったものを展示し、活動の拠点となる場。

・ 資料館
ヒップホップのレコードやCD、グラフィックやアートの本など、本来貯蔵され保存されないようなストリートカルチャーに関する資料を後世まで残し、誰でも閲覧、使用できる資料館。

3) スケートパーク
敷地を貫いている半地下のスケートパークを作り、スケーターが十分に練習できる環境を作る。

4) キャットストリートの遊歩道改善
現在、歩道と車道に分かれている遊歩道の歩道を拡張し、中央にスケートボードレーンをつくり、歩行者が道で休め、スケーターにとっても通りやすい道をつくる。

6. 終わりに

日本におけるストリートカルチャーの中心地である渋谷、原宿というエリアにこの建築ができることによって周辺の裏路地（ストリート）を刺激し、このキャットストリートがさらに活気付きストリートカルチャーがさらに発展していくことを願う。

参考文献

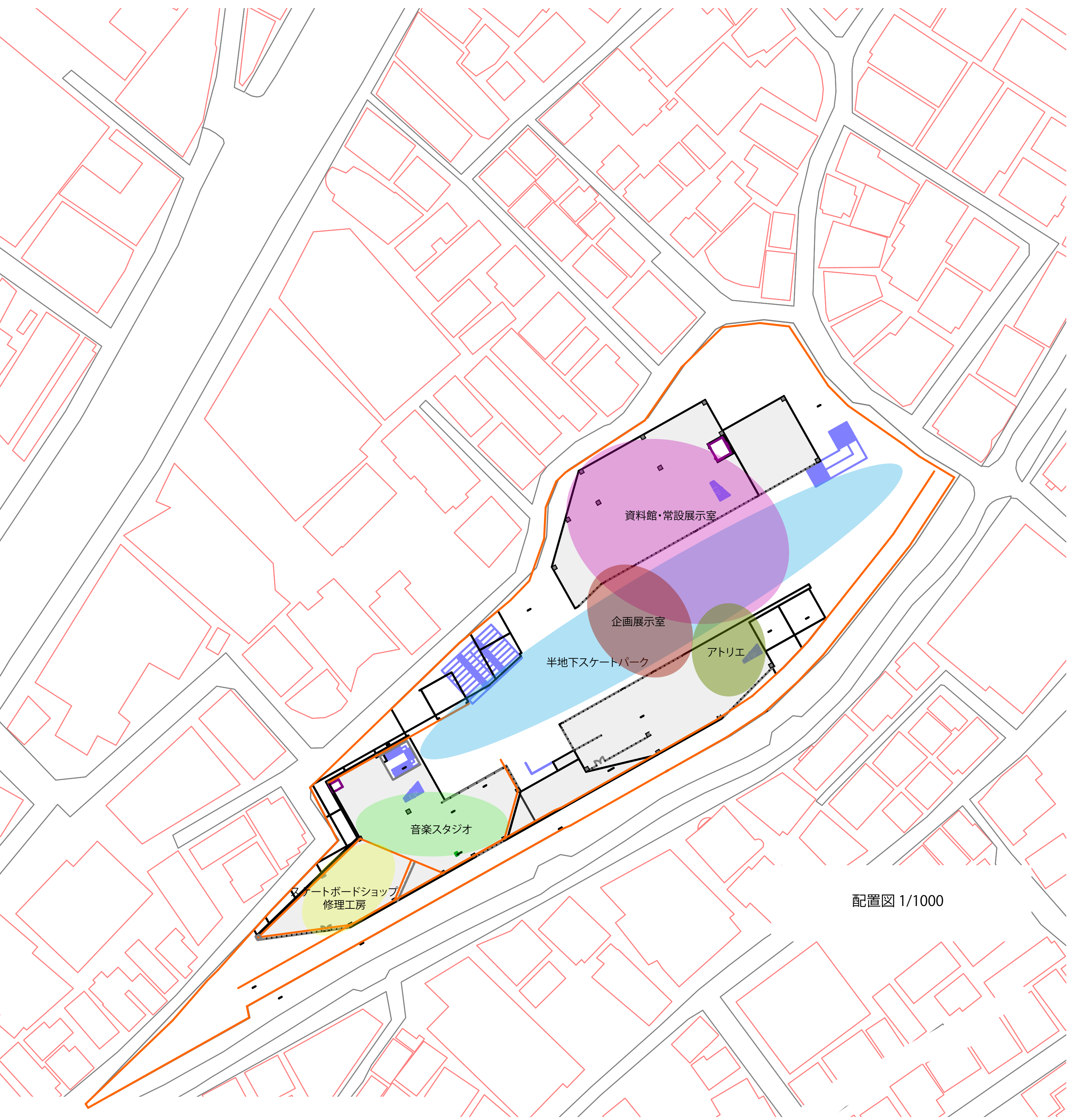
1) 神宮前地区 まちづくり指針
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/assets/detail/files/kurashi_machi_pdf_jingumaechiku.pdf

2) 渋谷区景観計画
https://www.city.shibuya.tokyo.jp/kankyo/keikan_keikaku/keikankeikaku.html

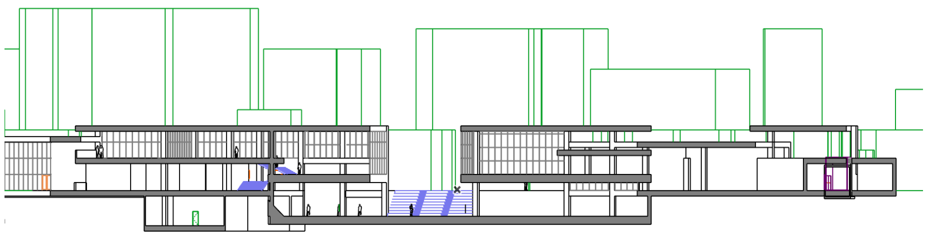
3) 「スケートボーディング、空間、都市―身体と建築」イアンホーデン著 新曜社 2006

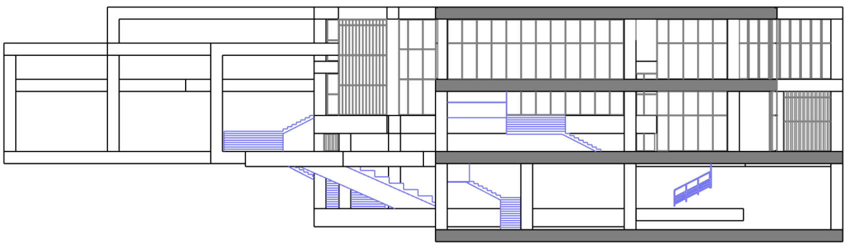
4) 「The RAP YEAR BOOK」ICE-T、シェイ・セラーノ DU BOOKS 2017

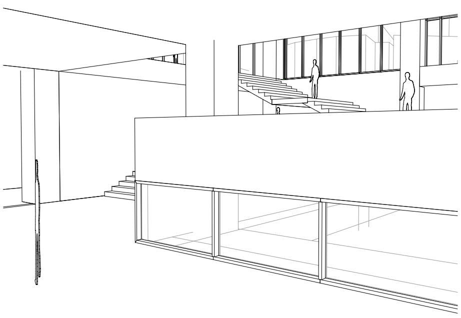
5) ＳＨＩＢＵＹＡ202X 知られざる渋谷の過去・未来 ケンプラッツ編集 日経ＢＰ社 2012



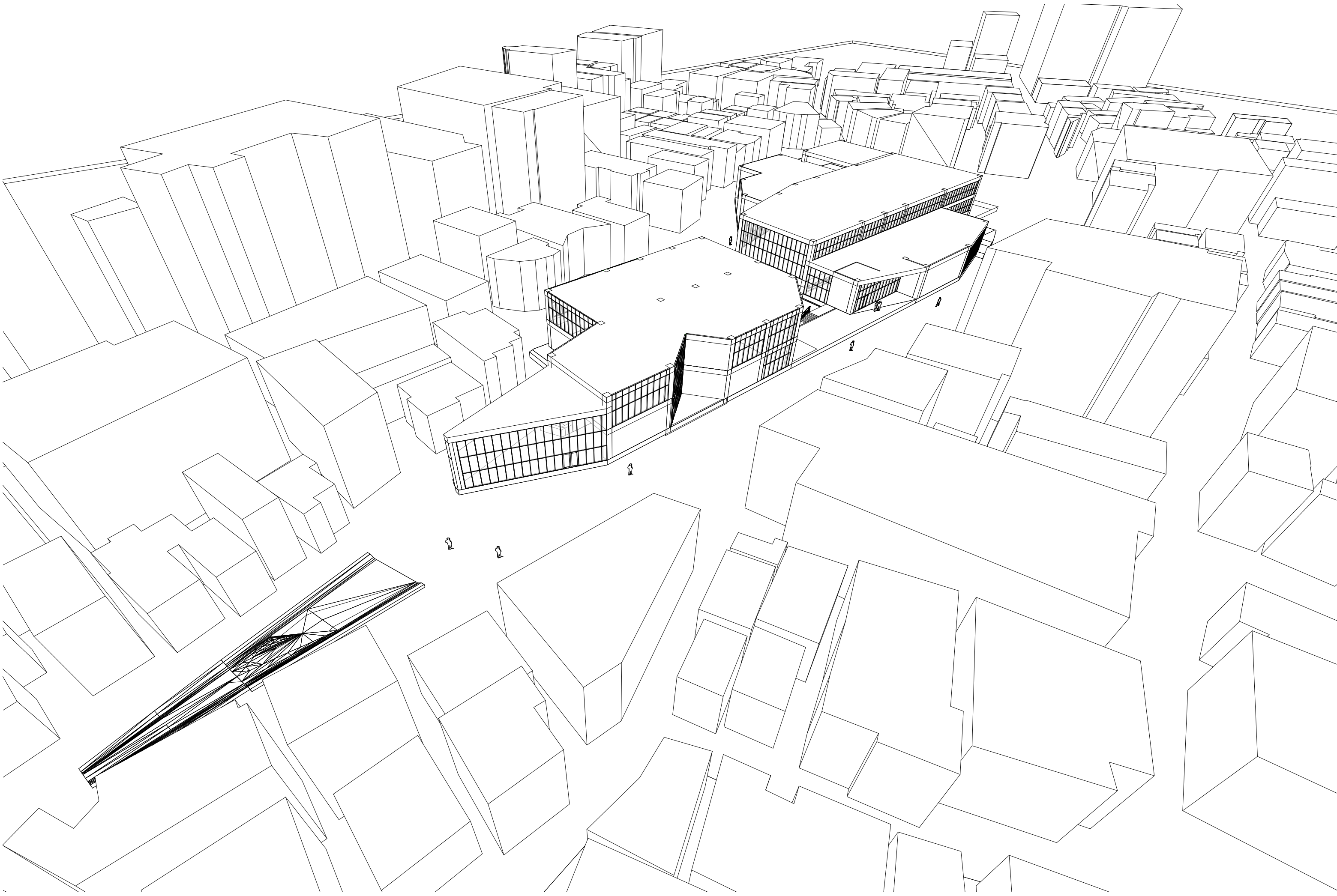
配置図 1/1000



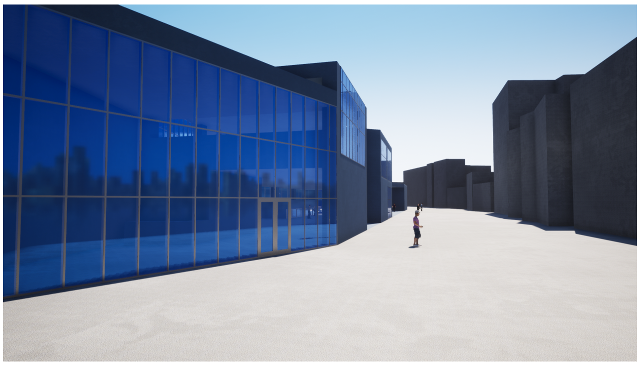




音楽スタジオ側のエントランスからの景色

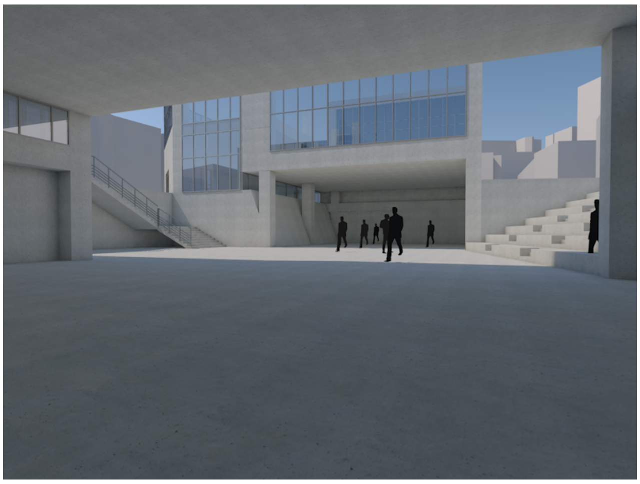


鳥瞰図

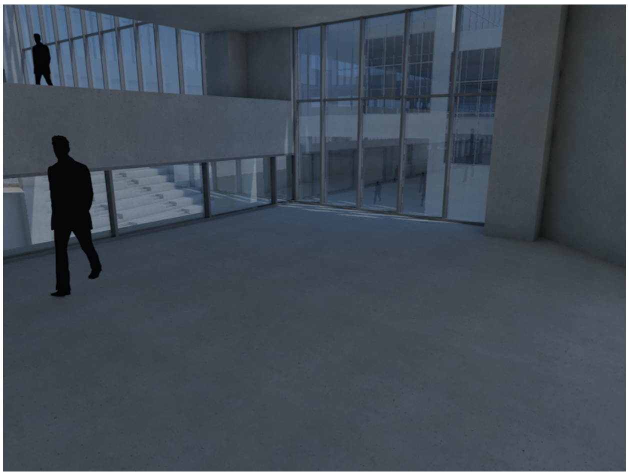


宮下公園側から見る

表参道側から見る



半地下のスケートパークからの眺め



エントランスから二階と向かいの展示室、スケートパークを眺める